想創奏

そうそうそう

SOUSOUSOU

そうそうの杜の
想いを創って奏でる機関誌

2025年6月号
vol.62

発行人　荒川輝男
編集人　高石太樹
デザイン　北橋惇



welfare, well-being!

最新活動情報

2025年度の指針、事業所合同旅行、鴫野エリア活性化イベント…法人の様々な『想い』ある活動をご紹介

読み物

ミャンマー情勢、そうそうの杜の歴史、エッセイ、インタビュー、福祉必見の書籍、利用者の声が『創る』読み物

エンタメ企画

ブラインドサッカーのアリス漫画、そうそうの杜グルメ&アート、そうそうの杜で『奏で』るエンタメ企画



想創奏（そうそうそう）

NO.62

CONTENTS

—— 法人の活動

・2025年度に向けて…真頼正施、山川真司
・3事業所合同旅行…手塚勇太
・5事業所合同旅行…折戸幹太

—— 鴫野エリア

・近隣の方へのインタビュー…高石太樹
・しぎのフェス2025…北橋惇

—— コラム・読み物

・これまで、これからのそうそうの杜…徳岡、仲澤、高石
・特集 ミャンマー大震災支援のお願い…ミャンマースタッフ
・ブラインドサッカー取材記録…中島秀樹
・漫画『ブラインドサッカーのアリス』…北橋惇
・エッセイ…關宏之、和田数子
・福祉に携わる者なら…關宏之
・利用者の声…山名友子
・親愛なる火星人へ…北橋惇

—— エンタメ

・そうそうの杜自慢のグルメ…中川晴美
・そうそうの杜アーティスト…駒澤美羽

—— お知らせ

・本の出版、配信者募集…北橋惇
・そうそうの杜メディアリスト
・ご寄付について、事業所一覧



Towards fiscal 2025

2025年度に向けて

そうそうの杜理事

真頼 正施

We will create communities and societies where everyone can live vibrantly in their own way.

障害福祉事業を足元から見直す１年とする。

1995年に無認可作業所からスタートし、2001年に社会福祉法人そうそうの杜として城東区内を中心に事業を展開した。2025年10月で法人設立25年目を迎えることとなる。私自身は2004年に入職し21年目を迎えるが、昨今の世界と日本社会の情勢を鑑みて今年度の法人運営について述べたい。

世界では、ミャンマーの内戦、プーチンの戦争、ネタニヤフの戦争は解決の糸口が見えず、アメリカ大統領の介入がどのような結果になるのか…期待も薄い。そもそもアメリカ大統領選自体がSNSやフェイクニュースの影響が大きく、日本で行われた選挙でも同様の傾向が表れつつある。今後の日本社会をどのように動かすかは、国民の良識や判断基準を今まで以上に研ぎ澄ます必要があるのではないか。

また、日本の高齢化・人口減少が進み、支え合い機能が弱まってきた。人口減少の波は、多くの地域で社会経済の担い手の減少を招き、その結果として耕作放棄地・空き家・シャッター商店街等の課題を浮き彫りにした。過疎地であろうと都市部であろうと地域社会の存続に危機感が生まれている。公的支援が専門分化された現代社会のシステムにおいて、様々な分野の課題が絡み合って複雑化している対応困難ケースも多くみられるようになった。多々ある課題を解決するためには、かつての助け合い機能の復活が必要である。一度弱まった機能を再構築することは難しいものの、その必要性と重要性は認識されている。

そのような中で、日本の障害者福祉サービス関連予算は2兆円を超え、確実な収入が見込めるビジネスモデルとして確立している。今、この瞬間にも営利法人が運営する事業所が誕生し増加し続けているのである。そのため、利用者獲得競争の傾向が続くことは間違いない。これまで通り、やるべきことを続けることはもちろん、社会福祉法人としての存在意義をスタッフ全体で醸成しつつ、自分たちの役割を全うすることに全力を尽くすことが重要である。今一度、理念に基づいて障害福祉事業を足元から見直す1年とする。

今年度は、これまで以上に城東小学校を中心とする地域とのかかわりを重視する。そのため、法人が主体となって地域に何かを働きかけるのではなく、地域住民とともに何かを作り上げるような仕掛けを考えたい。結果として、地域住民と法人が相互に支え合う関係を構築し、何かを生み出すきっかけを提

供する場となるように働きかける。昨年度の夏場からそのための準備として、地域住民・地域の事業者・福祉関係者との多職種による毎月定例の協議の場を設定し、現在も継続中である。今年度は、協議の中で生まれたイベントや企画を実施する。これまでのように、法人が正面に出て主体となるものではなく、あくまで、地域住民との共同設計で作り上げられるものであることを前提とする。今後の協議の進み方と、例年行ってきたイベント企画に注目したい。

外国人労働者については、法人としてアルバイト採用をスタートしてから、4年が経過した。第1期の介護福祉士養成校卒業者は正職採用から2年目となる。今後、リーダーや管理的な役割を担う存在としての意識づけや、研修参加を進める。法人内では多くのミャンマー人を採用しているが、ミャンマーでは内戦が長引き、徴兵制度のため、多くの若者の出国が困難になるといわれている。そのため、今後の継続的な採用の可否は不透明である。今後は、ミャンマーに限らず、そのほかの外国人労働者の活用を考える時期でもある。インドネシアやイスラム圏の国々の労働者採用も視野に入れる。

利用者の高齢化や医療的ケアの需要の高まりから、医療・看護との連携の強化が必要である。利用者の健康管理、医療的な指示を求める機会も増加しており、大きな課題であった。今年度は、昨年度から関係のあるみきクリニック（訪問診療中心）に法人の事業所の協力医療機関を依頼し、ケガや事故発生時にこれまでより柔軟に診察等の依頼が可能となることが見込まれる。また、訪問看護の活用においても同様で、第三者的な立場での医療面での協力関係を構築したい。

最後に、サービス管理責任者や支援員が担う個別支援計画・記録等の事務作業量が増加している。極端な表現ではあるが、スタッフ自身が書類作成のために存在しているかのように、各種書類の作成に忙殺されているのが現状である。スタッフのやりがいや生業としてのこの仕事の魅力を、若いスタッフに対して十分に伝えられていないのが現状である。これについては、外国人労働者も同様であり、さらには日本語で書類・記録を作成する負担の軽減も必要である。

今年度は、それらの課題を解消するため可能な範囲でDX化を実施する。勤怠管理・労務管理から取り掛かり、最終的には記録の音声入力やAIを活用した事務作業の導入を進める。

小規模の事業者が人員不足で廃業が続いている福祉業界であるが、福祉業界に限らず地域や利用者が路頭に迷うなどの事態を解決するために、事業承継や事業譲渡の機会があれば積極的に検討したい。

この仕事の魅力を、
若いスタッフに対して
十分に伝えられていない。



Towards fiscal 2025

2025年度に向けて

そうそうの杜理事

山川 真司

We will create communities and societies where everyone can live vibrantly in their own way.



利用者個々人の本当に望む支援ができているのか

いきなりですが、大きな変化がある年度だと考えています。

社会全体が変わってきている中で、我々の法人がどう変わっていくべきなのかも問われる年度になるでしょう。ただし、人との向き合い方、利用者との関係に対して変えてはいけないという事を忘れずに、変化をしていかなければいけないという事は肝に銘じておかなければいけません。

大きく５つの項目で考えてみる。

１つ目は一番肝心な事にはなるが利用者が自分らしく（自分の望む）暮らしができているのか？である。

自己決定支援と言われていたところから意思決定支援と言われる考え方になってきているが、実際に利用者個々人の本当に望む支援ができているのか？自分たちがこうするべきだという考え方で進めていないか？をスタッフそれぞれが疑問に思って出会っているのだろうか？という所である。自分たちの枠の中で決めていないか？ケース会議と言う中で本人不在での話になっている時が多くあるようにも感じる。本当に利用者の意思なのか？こちらに合わせてくれているのか？を見極めていかないといけない。実際にお金の問題や、健康面の問題もあったりして本人が言う通りにできないことの方が多いのだが、それでも一つ一つをしっかりと考えられているのか？出来ないと簡単に切っていないか？利用者と真剣にそのことについて話せているか？をいま一度見つめなおす事。

２つ目に事業所についてだが、昨年児童発達・放課後等デイの閉所を考えさせられる事案があった。実際に定員変更を行い縮小したのだが、その時点で利用されている利用者には多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫びします。ただ、実際に事業を行っていく中で、それぞれの事業所が利用者やそのご家族から理解され利用希望していただいている中でも、特に児童の放課後等デイについては多くの事業所が参画するに至っており、城東区内で６０か所にも上っていると聞く、そんな中それぞれに学習面・運動面・療育面での取組、さらに細かな特徴を出しておられ、一か所だけの利用ではない方が多くなっているのが現状である。定員数を超える利用の日があったり、６割程度の日があったりとばらつきがあり、スタッフの配置も過度な日に合わせる必要となっている。一度考え直すきっかけになり、今年度で

荒川理事長発信で行ってきたことを、どうすればスタッフ発信に変えていけるのか？

地盤を固めていきたい。

生活介護の事業所については利用時間数での報酬算定になり車いす利用者が多く入浴メインで対応している「庵」の事も考えなければいけなくなっている。この二か所については同一建物でもあり、日中と夕方と言う特色も踏まえスタッフの働く時間帯で調整していきたい。そこには、産休・育休から復帰される方や、育児中である母親の方の働く時間などの事もあり、うまく調整することで、一人一人にかかる負担を少しでも軽減していけると考えている。

３つ目は、物価について、社会全体の物価がここ数年でいきなり変化してきている。もちろん外国ではもっと早くから徐々に上がってきていたのだが、日本は据え置き状態で来ていたことから、この一年の変化はとてつもない上昇になっている。

そのような中、収入も合わせてあげていくという国の方針ではあるが、しっかりとした施策と言うよりは、場当たり的な加算であったり、ばら撒き的な助成金であったりとなっているのが現状であり、収入についてはそうそうの杜としては大きな上げ幅は考えられない状況ではある。しかし職員に対しては昨年度からの子育て支援やひとり親世帯への支援は継続していき、給与についてもしっかりと底上げしていけるようにしなければいけない。

このような状況であるため、今年度の収支差額が今後の収支差額の採算分岐点を示唆していくような年度になると考えている。

４つ目は、スタッフの件になるが、前述でもあげていたように、働き方が大きく変わってきている中でも女性がちゃんと働ける職場にしていかなければいけない。その先には男性の育児休暇なども必要となってきていることからも、今現在の時間８：４５～１７：４５を基本とした働く時間帯に拘らず、以前より理事長からも言われている通り、変動時間制を実際に導入していくことが必要だと考えている。その為には週４０時間、月平均１７２時間という事をもっと意識してもらいながらシフトなどの調整が必要になってくる。先ずは１日８時間をどう前後させて利用者にとって隙間の無い支援ができるのか？進めていきたい。

その為にも今年度はＤＸ（デジタルトランスフォーメンション）化を進めていく。先ずは、勤怠管理から進めて、給与管理、職員情報管理までを一元化したいと考えています。細かなことについては、始める段階での発信となりますが６月からいくつかの事業所で始めていき、今年度中に全スタッフで勤怠管理を行えるよう勧めていきます。また、働きやすい時間設定やスタッフ配置を余儀なくされているのが現状で、職員の増員も必要である。２０２５年度については特に泊りを担ってくれている職員に対して、大きなメリットが出るようにすることで、そうそうの杜で理念としても挙げている、地域で暮らす利用者にその人らしく生き生きと暮らしていくためのベースを守っていくようにします。

５つ目最後には、地域にとってのそうそうの杜を考える中で、今まで荒川理事長発信で行ってきたことを、どうすればスタッフ発信に変えていけるのか？地域発信してもらえるように変えていけるのかが大きな課題になってくると考え、「地域共生社会を目指す住民・他職種者会議」を始めてもらえたことが大きなきっかけと思っています。その会議で先ずは城東校下での取組として城東福祉会館をうまく使おうとなり、５/３(祝)を鴫野フェスの日としてイベントを行う事になった。町会長会議では夏祭りを切り替えて商店街の夜市とも合わせて１０月にも鴫野フェスを行うように３/２９(土)の会議で決定したとの事。私たちそうそうの杜ももちろんだが、多種多様な団体も参加協力してもらうことが前提での話になっていると聞く。すごく前向きなきっかけであり地域で一緒に取り組んでいくきっかけに繋がっていくと考えられる。

以上５つの事を考えて地に足をつけて取り組んでいくのが今年度の展望である。







福井

Prife・げんげん・杜のShokudo

3事業所
合同旅行

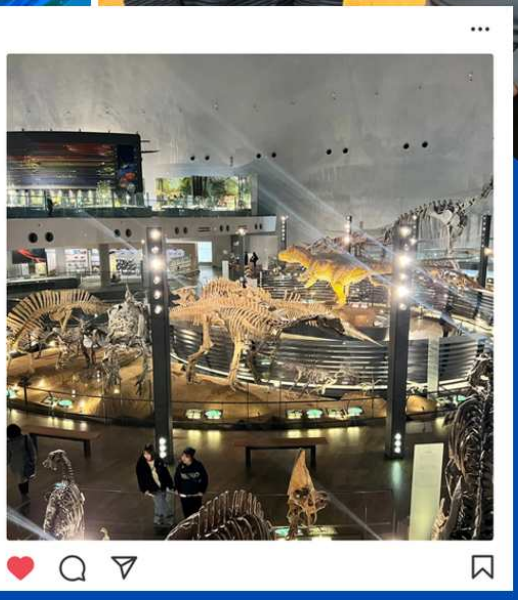
2月13日～14日







TICKET



見てふれて楽しむ、越前松島水族館

大迫力、日本最大の福井県恐竜博物館

温泉旅館と海鮮、レクで大盛りあがり！

合同旅行 in 福井県　　手塚 勇太

今年は今までとは一風変わったメンバー構成でいく事になりました。始まりはとある会議で「げんげんとPrifeが一緒に旅行に行けたらおもしろいのではないか？」という一言だった。

私としても「おもしろい」という言葉は好きなので一緒に行くことに対しての抵抗は全くなかった。

準備段階から就労や生活介護の垣根を越えてレクリエーションの準備をしたり、Prifeのメンバーだけで行く旅行とは違う緊張感もあった。

むしろ、レクリエーション会議の時にもげんげんのメンバーが引っ張っておりPrifeのメンバーは緊張して固まっていたのが印象に残っている。そこに杜のShokudoの利用者2名も合わさり三事業所で利用者22名　スタッフ　7名　総勢29名　で旅行に行くことになった。

旅行予定日が2/13-2/14であったが前週にとんでもない大寒波…。行先が福井県だったこともあって通行止めや災害に巻きこまれる可能性もあるかなぁと不安に思っていたが2/10の時点で気候も落ち着き、当日は快晴とまではいかなかったがくもりであった。

旅行スタート直前に高速道路が事故渋滞で経路変更というイレギュラーからの幕開け、法円坂から高速道路へ、そこからお待ちかねのバスレクリエーションが始まった。

今回の旅行は長距離のバス移動（4時間以上）だったので入念にレクリエーションを準備してくれていた。新規参加者の自己紹介から始まり、福井県ご当地クイズ、動物鳴き声クイズ、謎解きクイズ、似顔絵クイズと盛りだくさんでバスの車内も盛り上がっており楽しい移動となった。

まずはお昼ご飯を食べて腹ごしらえ。1000円のクーポンが支給されグループごとの昼食。それぞれ思い思いの海鮮丼を食べていた。さすが敦賀、どの魚も新鮮で大阪で同じ値段を出しても到底味わえないクオリティであった。

そこから越前松島水族館へ。雪も降っていたので少し寒かった。

いざ入館するとこぢんまりとした印象をうけた。しかし入ってみるとたくさんの魚や、動物を触れる展示があった。中でもエイやネコザメ等メジャーな生き物だけでなく、イセエビやクエ、ウナギも触ることが出来た。さらには生きた水ダコまでいた事には驚いた。皆が怖がりながらも勇気を出して触っている姿がとても印象的だった。

初日のツアーはここまで。旅館へと向かった。

旅館では温泉に夕食と大変優雅に過ごすことができた。夕食の際にはレクリエーションで恒例になりつつある、部屋対抗の格付けチェックが開催された。

ポカリとアクエリの飲み比べや、きのこの山とたけのこの里の食べ比べ、最後にはスーツにまで着替えてハンターがかけている本物のサングラスを当てるゲームもしてくれ夕食に宴会と大いに盛り上がった。

2日目は旅館を9時に出発し恐竜博物館へ。一週間前の大寒波の影響か初日と比べて大雪が積もっている場所がたくさんあった。もちろん恐竜博物館前も大雪…。普段は全身見えているであろう恐竜も首だけひょっこり出ていただけだった。

あまりにもたくさんの雪だったので、入館前後に大阪ではなかなかできない雪合戦で盛り上がることができた。普段見れない積雪ということもあって利用者たちも目を輝かせていました。

館内に入ると大幅にリニューアルしたとのことで、とんでもない迫力でした。模型の完成度だけでなく、映像を使ったアトラクションは圧巻で、新館にも福井県で発見された恐竜の模型が置いてあったり恐竜ファンにはたまらない施設だと感じた。

利用者のみなさんは雪の方が盛り上がっていましたが…。(笑)

そこからしばらくバスで武生に移動し2日目の昼食はおそばを食べました。そばの名産地とのことで期待が高まっていましたが、その期待に応えてくれる味だったのでみなさんモリモリ食べていた。

その後はバスへ移動し大阪方面へ向かう。帰りは渋滞もなくスムーズに大阪まで。17時過ぎに帰着。

Prife、杜のShokudo、げんげんと就労支援と生活介護の垣根を超えた旅行でしたが利用者同士がお互いに気遣いあい、助け合えた、とても良い旅行になったと思います。

特にげんげんから参加した利用者のみなさんには我慢をしいる場面（バス移動）がたくさんありましたが耐えてくれていたので感謝です。

「また行けたらいいなぁ」と思える楽しい旅行でした。









京都

つむぎ館・座座・創奏・心・げんげん

5事業所
合同旅行

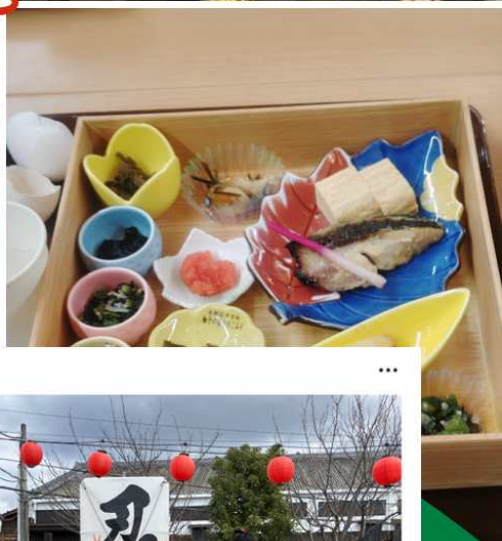
2月20日～21日













鉄道博物館で鉄道の歴史に触れる！

東映太秦映画村で人気キャラに会う！

47名が冬の京都を楽しむ大旅行











合同旅行 in 京都

折登幹太

合同夏旅行に引き続き、合同冬旅行を行いました。他の事業所（げんげん：生活介護）にも声をかけ、久しぶりの旅行参加となりました。旅行の前段階として利用者に京都旅行か兵庫旅行どちらが行きたいか写真を提示しながら選んでもらいました。電車が好きな人が多いようで、京都旅行に行きたいという声が多数でした。また、私事ですが旅行の主担当の経験はなく、何から始めればいいか不安が強かったです。それでも利用者の皆さんが少しでも楽しめたら良いなという思いで、他スタッフの力を借りつつ京都旅行の企画をスタートさせました。

1日目

バスに利用者36名スタッフ11名が乗車し、京都方面へ出発しました！バス内では初めて参加する人を中心に自己紹介をしてもらい、いくつかの質問に答えてもらうという形式でバスレクを行いました。「待ってました！」とバスレクを楽しみにしていた人もおり、着くまでの間、終始盛り上がっていました。京都に到着すると、そこまで寒くはない天候で過ごしやすかったです。最初の行き先は京都鉄道博物館に行きました。行ったことのある人が多く皆さん落ち着いて過ごしていました。また、ゆっくり周るグループ・早く周るグループに分かれることで同じペースで進んでいけるよう工夫しました。高齢もありすぐバスへ戻る方もいましたが、しっかりお土産は買っていて満足そうにされていました。

京都鉄道博物館の次は宿まで移動！夕食時間まで自由時間で、みなさん思い思いの過ごし方をされていました。夕食は次々と料理が出てきて、とてもお腹一杯になりました。後から聞くと「温泉良かった」という声が多く、冬旅行らしくゆっくり過ごすことができました。

2日目

朝食をしっかり食べ、東映太秦映画村へ出発！一部改装で入ることはできませんでしたが、その分時間をかけて見ることが出来ました。今回の冬旅行では皆さん旅行慣れしているということもあり、鴫野到着まで怪我なく旅行を終えることができました。スケジュールもゆったりしたものになっていたため、日々のお仕事を忘れリラックスできたのではと感じました。











INTERVIEW

03

いつもお世話になっております／近隣の方へのインタビュー



城東地域活動協議会
小玉滋さん

今回は、普段からお世話になっております小玉滋さんを取材しました。小玉さんは、地域活動の重要な役割（城東地域活動協議会副会長・城東連合東中浜４・7町会会長等）を担っておられます。地域の為に日々奔走されお忙しい毎日を送っておられますが、一方では介護保険の現場でケアマネージャーとしても活躍されています。

災害時の状態を見てもわかるが、緊急時の向こう三軒両隣の助け合いが大切だと言われている。

小玉さん：杜のShokudoができてからもうどれぐらい？

高石：今年で7年になりますね。

できた当初から来てるけど、とてもおいしいね。

ありがとうございます。本日はお時間頂戴いたしましてありがとうございます。早速お話をお伺いさせていただきます。小玉さんはどのような経緯で町会長になられたのですか。

前町会長が末期の癌がわかり、18年前に町会長代理になりました。それから翌年に町会長を引き受けました。

町会ではどのような取り組みをされていますか。

うちは、ふれあい喫茶、防災訓練、地蔵盆、高齢花見会、餅つきなどを行っています。わりと町会独自にイベントを持っています。

独自にされるのは難しさもあるのでは？

なかなか川を越えて、イベントに参加するのは難しさがある。

そうなのですね。

ここ最近の災害時の状態を見てもわかるが、緊急時の向こう三軒両隣の助け合いが大切だと言われている。うちの町会には可搬式ポンプがあり城東消防署と連携をとりながら年に一回独自に防災訓練を行っているんですよ。

地域を繋ぐための大切な取り組みですね。特に災害時などの近隣同士での助け合いの大切さはとてもわかります。そのような事態のことを考えても、地域を創っていくことは大切ですね。

うちの町会は新しく越してきた若い人も多いんですよ。

そうなんですか！？

だからこそその中には町会の行事が負担で辞めたいという人もいるんです。この前も、相談がありました。今まで話してきたような町会の存在意義をお伝えするとともに、町会はボランティアなので仕事を休んだり無理をして参加するものではないことなど、ざっくばらんにいろいろと話をもちました。その方は町会に参加し続けることに決めてくれました。



地域活動協議会とは

地域活動団体などが連携・協力して自らの地域のことは自らの地域が決めるという自律的な地域運営を実現していくための仕組みが地域活動協議会です。

これまで地域活動を担ってこられた地域振興会（町会）や地域社会福祉協議会などの地域住民の組織をはじめ、NPO、企業など様々な団体が幅広く参画し、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら、防犯・防災、子ども・青少年、福祉など様々な分野において、活動を行っています。



些細な困りごとでも気軽に相談に乗ってもらえる関係性が伝わってくるエピソードですね。小玉さんのような相談相手がいてくれる地域の過ごしやすさを感じます。

コロナの時なんかは、町会の存在意義を問う声もあったんだけどね。防災倉庫の備蓄品や災害時に必要な対策など、普段生活していたら目に着きにくい活動も行っているんです。

そうですよね。それは私自身が町会活動に参加した経験から感じました。そのあたりは実際に参加してみないと見えづらいところかもしれませんね。

コロナの時は止まっていたのだが、この前は５年ぶりに餅つきをしました。そういうときは普段参加しない子づれの家族が参加してくれるんです。こういうデータがあるんです。町会の役員になりたくない人は7割いてるんです。その一方で何か一回ボランティアするよと言っている人も７割いるんです。餅つきだけ、年末の夜警だけ、地蔵盆だけ、そうやって気軽に参加できる町会活動にしたいんです。町会は何かを強制する場所ではないんです。

昔ながらの慣例でそれが当たり前になってしまっていることもあるんですね。小玉さんが目指す改革や住民の自治意識の高まりから、そういう部分が軟化され、若い世代が参加しやすい町会になればいいですね。

それでいうと子供会なんかが今はない。昔は子供会を通じて隣近所との付き合いがあった。どうしたら若い人が集まれるか。スマホやＳＮＳを使って横のつながりを持てるプラットホームを作りたい。

それは面白いですね。私なんかも休日子供と過ごすことが多いですが、親子だけの関係では広がりが少ないんですよね。

町会の集まりの中で意見がでないということもあったんです。実はね意見が出るようになってきたのが鴫野駅なんですよ。大阪東線の工事が完了する平成３０年にエレベーターを付けるという計画があって。それまでも70段近くある階段を妊婦や障害がある人たちが上るのは大変だと言う意見があったんだけど、工事をきっかけに意見が出るようになってきたんです。結果としてはエレベータ設置が前倒しになり平成26年に設置されたんです。最近では団塊の世代の人が新しく町会に参加してくれるようになり、意見交換が活発になってきています。

地域の課題を通じて地域の人が主体的に考えて、実際に行動するというのは理想的な町会活動の形ですね。

いろいろな意見があるのは当然ですが、みんなで考えて意見交換する中で主体的に地域創りに関わる住人が増えていけばいいですね。

自治意識は大切ですね。熊本市や浜松市、長野県飯田市などは正職員を「いわゆる連合」に配置、特に浜松市は3名もしています。そういった自治体は町会の組織率は９割以上なんですよ。そういうところは若い人の意見を吸いげながら運営している。結果として自治意識が高いんです。区の連合町会長会議の傍聴をしたこともありました。最初は認められなかった。地域活動協議会の連絡会は議決機関ではないとのことでした。交渉の末、認めてもらえたが、実態は要綱の通りでした。自治意識を高めるためには町をどうしたいかという下からの意見を吸い上げていく必要があると思う。基本的な視点を変える状態をつくりたい。

確かに現状では住人が自分の地域という意識を持ちづらいですね。これまで小玉さんが行ってきた取り組み、積み上げられてきた成果を感じるお話ばかりでした。改革も一つ飛ばしにはいかないんですね。

そりゃ何十年と積み重ねてきたものを変化させるのには時間がかかります。

そういうなかでそうそうの杜は地域創りにどのように関われるでしょうか。

今度、東中浜４・7町会とそうそうの杜でボッチャ大会を企画しませんか。そういうイベントが地域を繋ぐ架け橋になったらいいと思っているんですよ。あれはなかなか面白い競技や。

それはいいですね。ぜひお願いします。いい地域を創っていきましょう。

そうそうの杜のように地域に出て活動しようとしている社会福祉法人はあまり聞きません。城東小学校で毎年運動会されていますよね？あれはすごいことだよ。難しいかもしれないが、地域の人達と一緒にやれたらいいよね。まずはボッチャだよ。ぜひ一緒に実現させましょう。

ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします。

インタビューの間にも小玉さんの携帯電話にはたくさんの相談が寄せられていた。

このインタビューを通じてよい地域を創っていきたいという小玉さんの熱い思いがビシビシと伝わってきました。ただ改革にはとてもエネルギーが必要とのことだった。

SHIGINO FES.

鴫野史上、最高を目指して。

・鴫野最大のお祭り、しぎのフェス。

5.3 2025 SAT

10:00-17:00

PLACE/SHIGINO

開催場所/しぎのすべて

LIVE ライブ



発表会
城東福祉会館
13:00-16:00

歌、ダンス、楽器…鴫野の思いがつどう夢の時間

SPORTS スポーツ



ボッチャ
城東幼稚園
10:00-12:00

年齢性別を超えて競える新スポーツ鴫野『ぼっチャ』

FLEA フリマ



フリーマーケット
南鴫野商店街
11:00-17:00

鴫野に眠る掘り出し物と素敵な巡り合い

FOOD フード



食べ物市
南鴫野商店街
11:00-17:00

鴫野の知られざる味覚が満載のフードパーク

主催：城東地域共生協議会

共催：城東地域活動協議会・南鴫野商店会

協力：社会福祉法人そうそうの杜

各種参加申込受付 FAXかQRコードにて

Fax：06-6167-2622 4/10締切



「鴫野にあるすべての社会資源を活かして、地域がつながり、誰もが楽しめるお祭りをしよう」
城東地域活動協議会。城東地域において、誰もが価値を持って生きられる『地域共生社会』の実現を目指して、城東区内の各団体が集まり、毎月まちづくりの展望について協議を行っています。
その中で、今までになかった大規模のお祭りをすることで、地域の交流と活性化を目指す試みとして考えられたのが『しぎのフェス』です。
午前中はパラリンピックの公式競技でもあるボッチャで汗を流して楽しみ、午後からは城東福祉会館を貸し切った発表会を行い、さまざまな文化活動に親しんでいただきました。南鴫野商店街全域を使用した食べ物市やフリーマーケットでは、地域に出店を開放、個性ある出店が揃うことで、大人も子どもも1日中楽しめるよう、各団体が精を尽くし、『鴫野史上、過去最高』を目指して協力しました。
当日の鴫野周辺は大変な活気で、1000人以上の来客がありました。多くの皆様に「すごい」「楽しい」というお声をいただき、感謝でいっぱいです。
今回は、当日参加できなかった方のために、しぎのフェスの内容についてレポートさせていただきます。

■午前中…ボッチャ大会
鴫野ではすっかりおなじみになったボッチャですが、これほど誰でも盛り上がれるスポーツはありません。今回も城東幼稚園のグラウンドをお借りして、たくさんの方々にご参加いただき、みなさん笑顔で過ごされていて嬉しい限りです。

■午後…発表会
城東福祉会館2階で、鴫野の表現者のみなさんによる文化活動を鑑賞できる貴重な機会となりました。タイムテーブルは下記のとおりです。

SHIGINO FES 発表会 タイムテーブル

13:00～ 開会挨拶 城東地域活動協議会会長 片岡 三蔵
片岡さんより開会のご挨拶。胸を打つ内容でした。
13:05～ 城東小学校金管バンド・バトン チック・タック・トゥー
子どもたちによる素晴らしいパフォーマンスに拍手喝采、みなさん感激されていました。
13:20～ そうそうの杜 一五一会サークル
そうそうの杜の音楽サークルで、利用者・職員が一体となってヒット曲の生演奏を行いました。
13:30～ たまや 語り部の会
今は見ることのない『語り部』。表現豊かな昔話は、声の表現だけで映像が浮かんでくるほどです。
14:00～ ミャンマーダンス
そうそうの杜のミャンマースタッフによるダンス。スタッフは民族衣装着用でとても華やかでした。
14:15～ TEAM MERRY PERFORMERS
城東小学校OBの中高生の方々によるパフォーマンス。とても美しく芸術的でした。
14:30～ そうそうの杜 ダンス部
こちらもそうそうの杜の利用者・職員が一体となったダンス。会場全体を盛り上げました。
14:45～ 田中 重成 の歌 2曲
田中さんの独唱。誰もが知る懐かしの名曲をしみじみと歌いきっていただきました。
15:00～ 瀬口・島田　ギターデュエット
薬局の薬剤師さんと訪問看護の看護師さんによるデュエット。エネルギッシュで歌唱力の高さが魅力でした。
15:15～ お琴と尺八の演奏
杜のこうさてんでお琴の教室をされている高橋さんと、片岡会長、荒川理事長によるコラボ。初めて琴や尺八の音色を聴いた方も多かったのではないでしょうか。
15:40～ 閉会 あいさつ　社会福祉法人 そうそうの杜 理事長 荒川 輝男
荒川理事長の子どもを巻き込むトークで、会場内の子どもたちは飽きることなく、突発的なクイズやじゃんけん大会に目を輝かせて参加していました。優勝した小学生の女の子2名には、豪華フルーツセット。楽しい思い出になったのなら何より嬉しく思います。

■終日開催…食べ物市、フリーマーケット
総勢21店の出店があり、商店街は人だかりでいっぱいに。地元地域の団体・個人様による出店で、さまざまな方がアイディアを出し合ってくださり、定番人気の美味しいお店から、体を使って楽しめる出店、はたまた、70歳代の美人メイドさんによる迷人（めいど）喫茶など、地域の皆様のアイディアで商店街が盛り上がっていました。

地域の皆様のお力で、鴫野史上最高を目指していくにふさわしい、充実したイベントになったと感じています。もちろん反省点もありますので、アンケートでご意見を取り入れつつ、地域の皆様とこれからのまちづくりを進めていきたいと考えております。次回は秋ごろに第2回の開催予定です。皆様ぜひお越しください。
※今回の様子はYouTubeでもご覧いただけます。

SHIGINO FES. MARKET MAP



1 創奏げんげん
フィギュア他



2 きーゆです
ハンドメイド雑貨



3 城東ソフトボール連盟/玉泉院
ポップコーン/焼きそば



4 アルバトロスジュニア
輪投げ



5 杜のShokudo Lian&アリス
かき氷/ポテト/おにぎり/ミルクせんべい



6 谷本さん
缶ビール/ラムネ



7 MERRY
ホットドッグ/グリルチーズサンド



8 つむぎ館
雑貨など



9 迷人喫茶
70歳代の美人メイド/飲み物/お菓子



10 ひなの会
フランクフルト



11 案内所
フリマ受付







杜のShokudo
だがしや
ふな定
MIYABI
パラダイスキッチン
おいもの国のアリス
石神園
黒江かしわ
川崎屋
コインランドリー
本と窯
さぼり
ひだまり菓子店
mosco
PERORI

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

案内所

11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

南鳴野商店街

杜のこうさてん（こども休憩所）
休憩
湯浅蒲鉾
豊田呉服
エビス屋
近畿家電
たまや
ふらっと
城東幼稚園
城東福祉会館



当たりの方には豪華景品進呈！
発表会会場で15時40分頃より

抽選番号 000



駐輪



ボッチャ大会会場



2階発表会会場



12 LUMO東大阪
お魚釣り/カード拾い



13 豊田さん
綿菓子



14 城東校下青少年指導員
スマートボール



15 3-2町会
本など



16 pas a pas きっず
お絵かきたこせん



17 ライフサポートハジメ
たこ焼き



18 座座
フルーツポンチ



19 フリマ
雑貨とハンドマッサージ



20 フリマ
子供服/オモチャ/アロママッサージ



21 フリマ
アロマスプレー/服等



22 フリマ
衣類/本/ぬいぐるみ/雑貨

特集



これまでのそうそうの杜 これからのそうそうの杜

ベテランスタッフ、新人スタッフに、それぞれの目から見たそうそうの杜を語っていただき、多角的な視点からそうそうの杜の歴史を創る新企画です。



＼勤続13年／

徳岡信

profile

所属　とことこっと

好きなもの	いちご、プリン、しば漬け
行ってみたい場所	ウユニ塩湖
人生で一度はやってみたい事	自力で四国八十八か所を回る

ひとこと　気が付けば人生第4コーナーを曲がった年齢になってしまいました。福祉の業界にいることも長くなってしまいましたが、まだまだ頑張らないと･･･と思っている今日このごろです。



＼勤続13年／

仲澤秀敏

profile

所属　とことこっと

好きなもの	炊き込みご飯
行ってみたい場所	どこでもいいのでのんびりと家族旅行
人生で一度はやってみたい事	格闘技（ボクシング）

ひとこと　一日一生　笑顔や笑いがある一日を



＼勤続2年／

高石太樹

profile

所属　げんげん/本部

好きなもの	何もない時間、猫、からあげ
行ってみたい場所	知床、屋久島
人生で一度はやってみたい事	オーロラを見に行く

ひとこと　まず自分が地に足のついた人になれるよう頑張ります。

これまでのそうそうの杜



『あらかわさんのいるところ』　　とことこっと　徳岡 信

最初にそうそうの杜に来たのは、まだ本部？が創奏にあったころ、元東大阪病院の横で、黄色いテントが目印のちっちゃいとこでした。そのころ荒川さんの席は、創奏１階のトイレを背に向けて机があった覚えがあります。徳岡は前職の入所施設で働いていたころなので2005年頃？かなと思います。たまたま訪問させてもらっただけなので記憶はあいまいです。少し後になると思いますが、私が勤めていた施設のお祭りで、そうそうの杜で焼きそば屋さん？を出してもらったことがあります。利用者が楽しそうに焼きそばを売りに回っていました。（押し売り？？？）その伝統は今も受け継がれていますね。

次に荒川さんの席で覚えているのは、今のげんげん１階が本部だったころ、手前の部屋のトイレを正面に見ながら机がありました。徳岡がそうそうの杜に入職した時なので2012年だと思います。そのころ、金曜日の夜に「金曜サロン」と言う催し？がありました。下宿屋の利用者が夕食後に集まってゲームをしたり映画を見たり、レクリエーションの時間がありました。みなさん楽しく過ごしていて、のんびりしていたなぁと思います。

もう一回くらいげんげん1階の時代に席替えがあったのではと思いますが、最後は２階に上がった部屋に机がありました。（トイレの前ではない？）今の本部が建築中のときなので、移転する直前です。その時代くらいまで、毎月１回日中事業所が休みの土曜日に、ハイキングの企画がありました。その名の通りウォーキングの時もありましたが、ブドウ狩りやミカン狩りなど食べ物企画も結構あって利用者と一緒に楽しく過ごしていた思い出があります。利用者は自由参加だったので、企画によって参加者の数が違い、正直やなぁと思っていました。

そしていよいよ現在のそうそうの杜本部ができあがりました。荒川さんは引っ越しして最初は広い部屋に席がありましたが、最終的に東側の会議室が定位置になり（もうトイレの前ではない？）現在に至っています。

『利用者が生き生きと暮らせる地域』をめざして、そうそうの杜はこれまで利用者と一緒に楽しくやってきました。そしてこれからもその理念は受け継がれていくと思います。『あらかわさんのいるところ』は、時代とともに変わってきましたが、その席に荒川さんが居ないことが多いです。生き生きと暮らせる地域創りは、座っていてはできないと言うことでしょうか。そして私たちスタッフも『あのころのそうそうの杜』と変わらず、利用者と一緒に楽しめるようなことを考えていかないと･･･と改めて思います。今日も荒川さんの席は空っぽです。利用者とどこかで楽しんでいるのかな？？？



これからのそうそうの杜



仲澤 秀敏

平成２４年の７月にそうそうの杜に入職し、今年で１３年になります。

はじめに配属されたのが「地域」という部署でした。「地域」とは当時運営していたGHや地域で生活している利用者（下宿屋や単身者など）の生活全般を支援する担当部署でした。作業所で務めた期間が長かった私には「地域生活」というものが新鮮で面白く、「地域生活」とは簡単なようで難しく、難しいようで簡単で、今でも彷徨っています。一概に生活といっても居食住が揃っていればＯＫではありません。考えなければいけないのが生活の質です。生活はもちろんのこと日中の居場所（事業所、在宅、会社など）、余暇、それぞれが欠けても生活とは言えません。それぞれがその人にとって充実するもの、それに近づけていくことで生活の質は高まるものだと考えています。そうそうの杜の生活の質はどうかと聞かれると正直まだまだと言わざるを得ません。スタッフも頑張ってくれていますが、まだまだ力を発揮してもらいたいと思うところもあります。もちろんスタッフだけが頑張るものではありません。そこにどれだけ利用者主体で本人たちの思いや考えを聞き出し、一緒にできるかが重要になってきます。

今、荒川さんの師匠である関さんの講義を受けています。真の社会福祉とはをテーマに講義を受けていますが、難しくて毎回頭から煙が出ています。その中で自分たちの法人のことを客観的に、普遍的に見つめなおすことでそうそうの杜が大切にしていること、大切にしてきたこと、これから伝えていかなければならないことを改めて考え、それを今のスタッフにどう伝えていくかを模索しています。

これは法人が大きくなればなるほど大切にしてきたことや伝えなければならないことが末端まで届かなくなるからです。特に外国人スタッフが増える中で、その想いはより伝わるものでなければなりません。見える形で示すことも重要になってきます。

「社会福祉法人そうそうの杜」は今後何十年続くかわかりません。時代の流れで理念も変化していきます。しかし、どのようなかたちであれそうそうの杜が大切にしてきた根底にあるものは何十年先も変わらぬものだと信じています。それをスタッフにどう伝えていくかが、今の私の役目だと感じています。今まで荒川さんにおんぶにだっこできましたが、今後は私たちが向かう方向を示し、舵取りをしなければなりません。１人１人がそれぞれの役割を理解し、それぞれが法人運営に関わって行かなければなりません。それぞれが組織の一員として自分の役割を考え、力を発揮することができれば今以上に法人はいろいろな意味で変化し、大きくなっていくと考えています。一方で個々の力が発揮できる組織運営を考える必要もあります。

地域の方やいろいろな分野の方々に集まっていただき、地域の活性化に繋がる新たな取り組みもスタートしました。これは「社会福祉」を大きくとらえる中で社会福祉法人の役割として必要不可欠な取り組みでもあります。障害者や高齢者、児童の支援だけ行えばよいというものでは決してありません。
今後どのような形で進むにしても社会福祉法人そうそうの杜が果たす役割を明確にし、責任を果たして行かなければならないと考えています。



これからのそうそうの杜



高石 太樹

「すべての人がその人らしく生き生きと暮らせる地域と社会を創っていきます。」

これはそうそうの杜の理念である。

親愛なるあなたは、今、生き生きと暮らしているだろうか。

私は鴫野に生まれ、鴫野で育った。ただ、諸般の理由から自分の故郷に特別な思い入れはなく、ましては地域に根差して生きていくことは時代錯誤だと考えていた。ただ、現実はそうではなかった。私はここで結婚し、子どもをもち、今もここで暮らしている。

自分がそうそうの杜に入職して１年半が経つ。その前も障害福祉事業所で勤めていた。障害福祉には私を引き付ける魔力がある。私が思うこの仕事の魅力は、自分自身や、人間という生き物と向き合い続けられることだ。究極的には生き方に正解はない。しかし、生きていれば社会と個人との間での摩擦は生じる。社会というか世間というか。この人間のどうにもならない性と私たちは日々向き合い続けている。その中でどうしたって「生きる」ということについて考えがめぐる。

そうそうの杜では実践が大切だ。そのための土壌もいまはある。「実践を続ける」を自分的に少しかっこよく言い換えると「最前線において福祉課題と向き合い、試行錯誤の中から新しい形を生み出し続けている」という感じだろうか。そうそうの杜には不思議と安心して挑戦ができる雰囲気が醸成されている。分からないことはとりあえずやってみたらいいと背中を押しくれる。私はこの大きな木を大切にしたい。

「すべての人がその人らしく生き生きと暮らせる地域と社会」とは…。具体的に現時点においてもある程度の評価を持てる。障害のあるなしに関わらず、そうそうの杜に携わる私たちが下宿屋や地域密着型の事業所を構え、地域の中で生きている。脱施設化というやつだ。私が知らず知らずに引き込まれた魅力の一つにこの開放感がある。開放感の仕掛けが実は至る所に散りばめられている。脱施設化という言葉自体は前々から存在し、大規模施設における大量殺人が生じた際も注目された。しかし、実際にはまだまだ大規模施設は残っている。社会で生きることにはそれなりの厳しさが伴う。結局福祉ってなんなの、障害者というラベリング…社会で生きるって言うけど…私は日々「生きる」を考える。

私自身は、すべての人の可能性を信じたいたちなので、地域に根差したセーフティーネットになるというぐらいの表現が程よいだろう。この地域に住む人で困っているなら、そうそうの杜に来ればどうにかなる、ここから再出発が切れるという場所になりたい…そして私自身もその一人だろう…などと言葉にするのは簡単だが、実際はそうではないだろう。生きていれば前を向けなくなる時もある。自分自身がどうしようもなく汚れた存在だと感じたときもあった。そのままのあなたを受け止めてくれる場所があれば、人はまた自然と前を向いて進んでいける。そんな「地域と社会」について考える。「地域と社会」だ。つまり、私たちはあなたと一緒に考えたいのだ。

ただ、この問いには答えはありません。



特集

ミャンマー大震災 支援のお願い

3月、戦時中にあるミャンマーをかつてない大地震が襲い、市民たちは混乱に陥っています



支援をお願いするとともに、ミャンマースタッフからの声をご紹介いたします

ミャンマースタッフの声

2025年3月28日日本の時間15時20分ごろミャンマーでマグニチュード7.7の地震が発生しました。内陸で発生したものですから津波の心配はないです。ミャンマーは地震ほとんどないので、地震がおきたらどう逃げようとか、どう準備したらいいのかがまったくわからないです。だからこんなにいっぱい死んでしまったと思います。

下敷きになってしまってなかなか助けられない人がすごく多い。現在も3000人を超えてます。今も救助隊ががれきの下敷きになった人々の救出に全力を尽くしていますが、電気も機材も足りず復興へのみちのりはあまりにも厳しい状況です。

私たちはこの悲劇を一人では乗り越えられません。今も多くの人が家もなく、食べ物もなく、清潔な水さえ手に入らず。私は雨風にさらされ厳しい環境の中で生きています。

さらに余震が続き不安な日々が続いています。これはミャンマーだけの問題ではなくこれは人類全体の問題です。私たちみんな繋がっています。誰かの苦しみは私たち全員の苦しみです。だからこそ世界中のみんなさんにお願いがあります。

どうか助けてください。どうかミャンマーの人のために祈り、支援をしてください。私たちには食料、水、医療、生活のための支援が必要です。そして何よりも明日という希望が必要です。ミャンマーの人々を忘れないでください。どうかともに支えてください。この状況を世界中にひろめることが今何よりも重要です。この声を一人でも多くの人に届ける事で支援に繋がります。

ジン（AYE PHYU ZIN）

ミャンマーの地震について、まず心配なことがたくさんあります。

ミャンマーは地震が起きやすい国ではないため、国民の多くは地震に関する知識をほとんど持っていません。そのため、今発生した地震は、ミャンマー国民にとってまさに悪夢のような出来事でした。

主な被害はザガイン市に集中し、マンダレー市にも被害が及びました。

地震発生から2日間は、救助活動が不十分で、また救助経験も不足していたため、多くの人々が建物の瓦礫の中に閉じ込められたままとなりました。

国際救援チームの支援により、一部の閉じ込められた人々は生存した状態で救出されました。

政府は死者数を2,500人と報告していますが、私は実際には3,000人近くに達しているのではないかと考えています。

多くの人々が命を落とし、家を失うのを目の当たりにするのは非常に悲しいことです。

今回の地震により、多くの住宅、寺院、文化遺産も破壊されました。

この経験を踏まえ、ミャンマー当局は、今後取るべき予防措置について国民への啓発活動を積極的に行うべきだと考えます。

また、地震からの復興にも、より真剣に取り組む必要があるでしょう。

私自身も、できる限り地震復興活動に協力しています。

最後に、私は今も、できる限りの支援を続けながら震災復興に取り組んでいます。

ヌエ（SAT HMUE NWE）

地震について感想を書きないと思います。これぐらい地震は私たち生まれない前1回あった事を聞いたことあったが、今は目の前で見られとても悲しいです。ミヤンマーはこの地震前にも国内戦でとても困って今地震もあってもっと困ったことを見てあしんできない。今は日本もミヤンマーをとても助けてること見られミヤンマー人としてとてもありがたいです。日本でいるミヤンマー人たちも募金活動とか自分の給料とかのお金で助けてるけど足りないでこれよりも助けてくださいとミヤンマー人として頼みたいです。いつも助けてるのことをとてもありがとうございます。最後、ミヤンマー人として話をするとミヤンマーは今あった地震みたいまだないで、戦争も早め終わってミヤンマー人たちの生活もいい人生になったこと見られたいと思います。

アウン（AUNG NYEIN THWE）

2025年3月28日にマグニチュード7.7の大地震が発生しました。この地震はミャンマーの歴史上最大の地震となりました。この震災により、少なくとも3,000人以上の尊い命が失われ、多くの家屋やミャンマーの歴史的建造物が倒壊し、大きな被害を受けました。日本をはじめとする国際社会や支援団体が行ってくださったことに、心から感謝申し上げます。

ミョー（MYO THURA）

私の人生に初めての地震でオンラインから死者や被害などを見て信じられないほどとても驚きました。死者も多いし被害の中でもミャンマーの有名な古代建物がたくさん倒れていたのでミャンマー人として私はとても悲しかったです。

エー（AYE NI HLAING）

私たちの国ミャンマーは小さな国ですが、今その小さな国に様々な困難が押し寄せています。コロナウイルスの影響、戦争、洪水、火災、地震などが重なり国内にいる人々が非常に厳しい状況に置かれています。その中で国民同士で助けて合いボラティアの方々が懸命に救助活動を行っています。今回の地震では多くの命が失われ、多くの家族が深い悲しみに包まれています。その悲しみを思うと胸が痛みます。ミャンマーの皆さん安全で過ごせるように、そして一日でも早く平和になるように

スウ(SUE MYAT THWE)

ミャンマーで起きた地震をニュースで見て本当に怖くて、そしてとても悲しい気持ちになりました。家や建物が揺れ始め、人々の叫び声が聞こえたとき、胸が痛くなりました。ニュースで被害の様子を見たとき、涙が止まりませんでした。多くの人が不安の中にいて、大切なものを失ったことを思うと、胸が締めつけられるようです。自然の力には逆らえないとわかっていても、こんなに苦しい思いをするのは本当に辛いです。どうか、被害にあった人たちが少しでも早く心の平和を取り戻せますようにと願っています。

ティン（TIN　HTAR　THWE）

私が生まれた時から今までそんな大きいミャンマーの地震がなかったです。私の家族が大丈夫でしたが、地震の中で大丈夫じゃなかった家族の変わりに結構悲しいです。毎日インターネットで上がってくる地震のニュースを見て悲しいです。他のミャンマーの地震のことを心配してくれて手伝いに来ている外国人たちもほんとありがたいです。私もできるぐらい支援しています。他、私たちの世界では戦争や自然災害やいろいろな悪い事がないようにお祈りします。

ヤダナー（YADANAR HTUN）

支援先　一般社団法人日本ビルマ救援センター『軍に渡さず、直接被災者に届ける』

BLIND SOCCER REPORT

HIDEKI NAKAJIMA

ブラインドサッカーレポート



視覚障害者の『見えないサッカー』のすべてをレポート。

パラリンピックでも正式採用された、音のみを頼りにプレイするブラインドサッカー。一体どのような競技なのか？　そうそうの杜随一のサッカーファンである中島秀樹が、ブラインドサッカーの生い立ちから体験取材、世界大会の実況レポートまで行う連載企画！





体験&解説 EXPERIENCE

中島秀樹

3月8日（土）、私と北橋さんで　ブラインドサッカーの体験会に西成区　南海・大阪メトロ天下茶屋駅近くにあるフットサルコート「ノア・フットサルステージ天下茶屋」に行ってきました。当日は女性講習者向けに体験会を行っていたので、私たちは、開始前の数分間のプチ体験をしてきました。

ブラインドサッカーは主に視覚の障害のある選手がプレーする球技です。1980年にフットサルを元にして導入されました。視覚障害者もしくは弱視者と健常者が協力してプレーします。

ブラインドサッカーの特徴として通常のサッカーボールより２周りぐらい小さく、音の出るボールで原則目隠しもしくはアイマスクを着用してプレーします。実際に触ってみると思ったよりも小さく、少し重かったです。ボールもフットサルコート仕様になっているせいか、思ったほど跳ねなかったのには少し戸惑いました。それも安全を考慮して設計されているのかと思います。

１チーム５人制、ほぼフットサルに似た人数で４人がフィールドプレーヤー、1人がゴールキーパーを勤めます。キーパーは基本的に目の見える人の役割です。他のプレーヤーは目隠し、もしくはアイマスクを着用してプレーします。
ゴール裏にガイド（コーラー）がいてボールの位置、角度、距離をフィールドプレーヤーに伝えます。相手のボールを取りに行くときはボイという掛け声をして、プレーします。

話を体験会に戻します。
先にも記しましたが女性対象の体験会だったので、開始前の数分間、アイマスクはありませんでしたが、帽子で顔を覆う形で、ボールを蹴らせていただきましたが、視覚が遮られるため、ボールの行方がわからない、ゴールに向かってシュートしようとしても方向がわからない為外してしまいました。また、掛け声もどこから声を出しているのかわからないので、苦労しました。目隠しをしてプレーしようとしても怖くて蹴れない、また、ぶつかったり、こけたりしないかが心配な点でした。

そんな体験は僅か数分で終わりましたが、これを軽々とできる選手の皆さんは大したものと恐れ入りました。その後は講習会の見学、主にトレーニングとボールの持ち方を中心とした練習をやって、フルタイムを迎えて終了。挨拶をして帰宅の途につき、私のブラインドサッカー体験記は終わりました。

後日、スタッフの方がブラインドサッカーの公式球をそうそうの杜で購入いたしました。つきましては興味がある方はいつでも貸出しますので、北橋さんまでお声をおかけ下さい。

ここまで私のつたないレポートを読んでいただきありがとうございました。

次回はうめきた広場で行われる世界大会のレポートをお送りします。

補足



今回、中島さんが体験したブラインドサッカーの公式ボールを、本部北橋が預かっております。ぼくも経験したのですが、視覚をさえぎって運動することの怖さと、声掛けしてくれるチームと一体化する喜びが混じり合う奥深いスポーツだと思いました。
みなさんもブラインドサッカーを体験してみませんか？　ぜひ公式ボールと触れ合ってみてください。
この連載企画では中島さんと北橋が二人三脚になって、ブラインドサッカーの奥深さに迫ります。

北橋 惇



世界大会観戦レポート

中島秀樹

私はJリーグをはじめ、JFLなどのサッカーをよく見に行きますが、5月25日、JR大阪駅前北口 うめきた広場で行われた.国際視覚障害者スポーツ連盟/特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会主催のブラインドサッカー世界選手権大会の決勝を見てきました。

この大会は 全8カ国の出場で成り立っていてその中に日本が入っており 、4チームで1回戦総当たりのリーグ戦を行い、リーグの1位と4位チーム、2位と3位チームがそれぞれ準決勝戦を行い、3位決定戦、決勝まで実施をして、この日行われた試合では日本が決勝に勝ち進みアルゼンチンと対戦をしてその試合を北橋さんと見てきました。

試合形式は20分ハーフでアディショナルタイムがない 方式 で行われ 、 普通のサッカーと少し違う点が多々ありましたが楽しく見られました。

試合内容はアルゼンチン ペースで進み、また アルゼンチンのサッカーは守りが強く 日本がなかなか苦戦するという 形で進み 、前半の終了間際に1失点をして ハーフタイムに入りましたが 後半 もやはり アルゼンチンのサッカーのディフェンスの硬さに阻まれ また試合終了間際に失点を重ねてしまい 試合終了となり日本は惜しくも消し 優勝することはできませんでしたが 準優勝という素晴らしい成績を残し 世界大会は 締めくくりました。

それでも面白かった点としては GK以外のフィールドプレイヤーがアイマスクをしているのかかわらず 健常者のサッカーと同じように激しいプレーをやっているのには 驚き また 会場も人がたくさん来られており かなり エキサイト状態での試合内容となりました。

今回 うめきたという人が多く通る場所で サッカーをやったのには ブラインドサッカーを知ってもらうために 仮設のピッチを作り 買い物や駅に遊びに来た方を見てもらうことが目的でした。

またこの大会は ミニ FM を使った 放送を流しておりフリーのアナウンサーが実況するスタイルをとっておりわかりやすい 放送をやっていました。 幸い 私はポケットラジオを普段から持ち歩いているのでその放送を聞くことができ 結構 感心しました。

決勝のハーフタイムには障害者サッカー連盟の会長である元日本代表の北澤豪氏が挨拶に立ち健常者のサッカーと変わらないでしょうと興奮気味に話していました。

もしも興味がある方がいらっしゃいましたら 大会の模様を YouTube で上がっていますので ブラインドサッカー世界大会 で検索したら出てくると思いますのでそちらをご覧ください 。

もっと ブラインドサッカーの世界を知りたくなりましたのでこのまま引き続き追いかけていきたいと思い今回のレポートを終わらせていただきます。 拙い文ですがご覧くださいましてありがとうございました。

補足

惜しくも日本は優勝を逃してしまいましたが、男子は準優勝、女子は優勝と、ブラインドサッカーでの日本の強さを感じさせる世界大会でした。動画配信は上記QRから御覧ください。見えていないと感じさせない選手たちのパワフルなプレイに、会場が一体となる素晴らしい体験でした。

北橋 惇

「光なき原野に咲く」

世界にたったひとつのブラインドサッカー物語、制作中。



光を失った。
だから、光が見えた。

サッカーが好きだった。
ボールが見えなくなったとき、
世界はどう変わる？

中島秀樹、渾身の一作。

2025年AMAZON販売開始

そうそうの杜出版部

目が見えなくてもサッカー！ ブラインドサッカー世界大会 inうめきた広場レポート



アリスです♡
今回は特別編で
ブラインドサッカー世界大会を
見に行ってきたので
そのことを紹介するね♡

ブラインドサッカーは
目の見えないひとたちが
音と感覚だけでプレイする
暗闇のスポーツだよ

選手は全員
アイマスク

えー！ でも音だけで
サッカーできる？
目をつむったら
歩くのもこわいよ！

それが選手たちは
見えてなくても
全速力で走るの！

すご！
ぶつかったり
しないの？

やっぱり
世界大会でも
全力でぶつかったり
してたよ

他のスポーツだと
会場がピリッとする
シーンだね

でも選手達は
お互いを思いやって
ぶつかった選手同士
「ドンマイ」と
背中ポンしてたのが
とっても
印象的でした♡

やさしい
スポーツだね～

試合がはじまると
見えてないことが
信じられないくらい！
最後はブラインドサッカーで
あることも忘れて会場全部で
「日本！」コールしてたよ

へ～　でも見えてなくても
ゴールがどこにあるかわかるの？

ゴールに蹴るPKのときは
ゴールをカンカン叩くひとがいて
その音だけでみんな正確に
ゴールに入れれちゃうの！

ふたつの音のあいだにゴールがある！

カン
カン
カン
カン

そんなことできちゃうんだ！
普通のサッカーより難しそう！
プロのスポーツなんだね

見ててすごく
楽しかった！
気になるひとは
ユーチューブに
動画があるから
見てみてね♡

そうそうの杜で
公式ボールも
買ってるから
みんなで遊んで
みてね～！

ぼくもやって
みたいけど
足が短すぎて
けれないよ

ヘコ

ドンマイ！

エッセイ

01

關 宏之

たき火



大船渡の山火事はやっと収まったようです。ロスアンゼルスでも大きな火事がありましたが、原因は定かではないようです。消防庁によると、わが国の山火事の出火原因は、落雷などによる自然発火ではなく、野焼きや刈り取った草木を庭などで焼却するたき火やタバコの不始末（約3割）、河原や畑の野焼きなど（約2割）で、乾燥した山野でたき火の火の粉が強い風で飛んで雑木林や山林に引火したものだといいます。

童謡「焚き火」は、私には慣れ親しんだ風景を連想させます。

「垣根の　垣根の　曲がり角
焚き火だ　焚き火だ　落ち葉焚き
あたろうか　あたろうよ
北風　ぴいぷう　吹いている」

田舎では春先（1月下旬頃）ともなると、あちこちでもみ殻を燻したり、農作物の茎や土手のススキや枯葉を焼却する光景をよく見かけます。この時期の恒例の農作業であり、①土中の害虫や卵などを駆除、②灰のミネラル分により酸性となった土壌の中和、③腐りにくいススキ等の立枯れや枯れ葉を除去して新芽の発芽を促す、などとともに、刈り払った草や枯れた雑草を人為的に燃やして空間を空け、防火線を布いて火災を防止するという役割もあったようです。「野焼き」は、全国各地で行われてきた伝統行事で、特に奈良の若草山焼きは早春を告げる行事として広く知られています。

私のじいさんも毎年この時期になると裏の土手の茅場を焼却するのが慣例でした。ある時それが延焼して、危うく隣家の近くにまで迫ったことがありました。ご近所の協力で事なきを得たのですが、幼い私には恐ろしい体験でした。野焼きは、じいさんの心に深く刻まれた百姓魂に根ざした行為だったのでしょう。これに懲りずに頑固じいさんは毎年のように繰り返しては皆のひんしゅくをかっていました。現に、大船渡の後の、長野県上田市や山梨県の山火事、奈良の文化財周辺の火事は、たき火によるものだといいますから、日本人には、農耕民族の起源ともいえる「焼き畑農業」は、例え火事になろうとも止めてはならない神聖な行為なのでしょう。

その昔、シンガポールに行った時、煙と木々が燃える臭いで空港が閉鎖になったことがありました。インドネシアの山岳地帯では、焼き畑農業が伝統的に習慣となっており、トウモロコシやキャッサバ、ヤムイモなどの作付けのためには、容易に禁止できないそうです。
余談ですが、「たき火」の歌は、太平洋戦争下にあっては、空襲の目標になると軍から難くせをつけられ、歌を歌うことも禁止されたそうです。戦後もGHQは「たき火は暴動を誘発する恐れがある」と言って禁止したそうです。消防庁は「街角のたき火は危険」としており、2001年の廃棄物処理法で「野焼き」が禁止となり、たき火そのものが街から消え、童謡の「焚き火」も歌われなくなるのでしょう。

正月のしめなわなどを集めて焼却するとんどやきもなし、オジサンたちがたき火を囲んでいる輪に入って、背中や身体の前面をたき火に当てて大人びた気持ちになった頃を懐かしく思い出します。いま　庭の枯れた茎や大量の枯れ葉をごみ箱に移しながら、豪快に燃やしてしまいたい、と思うのはじいさんのＤＮＡのなせる業かも知れません。

エッセイ

02 とりゃー

關 宏之



4年前からそうそうの杜で、スタッフやミャンマーからの就労者の方々に向けて、福祉の流れや意味、私たちを取り巻く今日的な話題などを定期的に話す機会を持っている。そのうちの一コマが、「どーする　どーする」をテーマに、4名のベテランスタッフに問い、それへの論述をもとに議論するややインフォーマルな勉強会をもち、大いに悩んでいる最中である。

社会福祉法人のガバナンスや社会福祉の市場化（イコールフッティング）を目指す厚労省の方向性があり、また、荒川さんもときおり自分の高齢を口にするようになり、そうそうの杜の今日までの実践をいかに持続・継承・展開するかが大きなテーマであると思ってきた。

世間では、高名な創業者の言説が連綿として経営の基盤にあり、経営陣が交代しようが企業文化を推進する盤石なエンジンとして機能しているようにみえる。しかし、社会福祉法人にあっては、創業家の世襲はよくある話で、社会福祉の何たるかを議論しないで、ただ、創業者の偉業を美化して伝えているだけという例もある。

ここでいう「どーする　どーする」勉強会は、当初はガバナンスや組織論を中心に議論を進めたが、よそ行きの議論では核心には至らなかった。掘り下げていくなかで、彼らは、異口同音に「荒川さんが…」に代表される“そうそうの流儀”を口にする。

あるスタッフは、「変わらずにそこに在り続けることの大事さ」と述べており、それを導いた過程に大いに触発された。その経緯を彼は、「言葉に意味は無いから言葉で動いてもらおうとしても無駄だ」という理事長のなぞかけから説く。以下は、彼の述懐からの引用である。

『支援者泣かせのKさんという方がいる。彼の発するの言葉に同じ言葉を返す、これには意味がある。彼は「とりゃー」と発し、私が「とりゃー」とオウム返しをする。ただそれだけ。そうすることでKさんが落ち着くようになった。それに気づいた時に初めて「言葉に意味は無い」の意味が理解できた。（中略）私の会話のような言葉を投げてもKさんの前を素通りするだけで意味は無い。Kさんの言葉に同じように言葉を返す、これには意味がある。「とりゃー」と言って「とりゃー」が返ってくるとKさんは落ち着くのである。（中略）それから15年以上経った数年前のことである。Kさんがパニックになり人手が足りないということでヘルプに行った。調子が悪いと顔色が赤紫になるKさんの顔色はまさに赤紫色だった。「久しぶりに手が出るのかな？」と思ってメガネを外そうとした私に、Kさんは「とりゃー」と呼びかけたのである。私は吹き出しながら「とりゃー」と返す。Kさんの顔色がみるみる落ち着いていった。運動会等の行事で私を見つけるとKさんは相変わらず「とりゃー」と言ってくる。私も「とりゃー」と返す。私にとってはKさんとの関係性を示す誇らしいやりとりなのである。』

投げたボールが返ってくる。キャッチボールは途切れずに続く。そうそうの杜の組織文化の頂点には荒川さんがいるが、それが咀嚼されて途切れることのないキャッチボールとして継承されているのだろう。かのスタッフの行動は、地に足がついたもので、一過性のものでも奇をてらうものでもなく、美辞麗句で表現するのもおこがましい。

この「どーする　どーする」の勉強会を通して彼ら自身の言葉と感性で、そうそうの杜を展望した成案が作られ、それがスタッフに共有され、伝承されるよう願っている。その手順は容易ではないが、そうされなければならないのである。

エッセイ

03 小説と私

和田 数子

志賀直哉の『小僧の神様』という作品をご存じだろうか。小説を読み返すとき、年齢によって感じ方が変わることで、自分の成長や価値観の変化に気づくことがある。今回はそんな体験を書かせてもらうことにする。

この短編小説は1920年雑誌「白樺」一月号で発表された。大正9年といえば、第一次大戦後の不況で庶民の生活は困窮していた。貧しい家の子どもたちは、小学校を修了すると、この物語の主人公・仙吉のように年季奉公に出され、住み込みで給金のない児童労働に就く。神田の秤屋で奉公する小僧の仙吉と彼に鮨を奢る若い貴族院議員Aとの出会いとかかわりに生ずる細やかな感情が描かれる。後ろめたさを感じながら小僧の望みを叶えてやるA。思いがけない幸運を神様の行為だと錯覚する仙吉。善意や親切の意味をどう解釈するか、当時の社会背景や作者の意図を私は今も考えている。

最初に読んだのは中学生のときだった。岩波新書や少年ジャンプが百円で買えた時代だった。転校したばかりの中学には司書のいる図書館があった。十進分類法を知ったのもこのときで、私は友人ができるまでここで本と過ごしていた。

最初は背伸びをしている小僧が鮨にありつけた単純な話だと思った。ところが10章で急に作者が登場し、小説の過程と顛末、迷いなどを説明して終わるのだ。何とも不思議な気持ちになった。窓越しの薫風は私を大正時代に誘った。

志賀直哉を調べ、歴史年表を広げ、仙吉の生きた時代に触れてみたいと思った。屋台の鮨屋って？　当時冷蔵庫はあったの？　丁稚奉公ってどんな働き方？　知っていそうで知らないことだらけだが、図書館は調べ物の宝庫だった。

小僧の大人への憧れとおいしいものへの好奇心は共感できたが、気前よくご馳走してやれないAの心情はまだ理解できなかった。仙吉がAのことをお稲荷様かもしれないと思うようになり、最後の章では、悲しいとき、苦しいときにあの客を慰めにし、いつかまた自分の前に現れることを信じてしまうと書かれていたところでは、何だか小僧が哀れになった。

その後私は社会人となり、再びこの物語に触れることになる。志賀直哉をこよなく愛する職場の先輩が、股関節の病で術後に装具をつける事態になったときだ。先輩は和式の便器が使えなくなり、リハビリ中に環境改善が必要になった。職場は政令指定都市の区役所で、まだ玄関にスロープができたばかりの頃だった。女子トイレが無かった時代の話をする先輩たちは、簡易式の便座をカンパして設置すれば良いと話をまとめていた。

この時、私のどこかで仙吉と先輩が重なった。「助けるもの、助けられるもの」の構図が頭に浮かんだ。先輩はこの先、便座を置いてくれた人たちにずっと感謝してトイレを使わなければならないのだろうか？　そもそも、区役所のトイレは来庁者のためのものであり、職員専用ではない。足や目の不自由な方や高齢者、保健所には妊婦が訪れる。今まで、何で気づけなかったのだろう。先輩のことはきっかけで、私たちが相談すべきはこの庁舎のトイレを和式から洋式だけではなく、車椅子や白杖で来る人の設備も必要ではないかと言うことだ。私は職場でみんなが使えるトイレを作る活動を始めた。

お金や権限があれば容易にできることはたくさんある。そのことで誰かを傷つけてしまうことを忘れがちだ。Aは小僧に鮨を食べさせてやりたかったが、自分の思いを一方的に押し付けて良いものだろうかと躊躇していたのだ。自分にはお金があり、小僧に鮨をご馳走する

ぐらい容易なことだったが、自分の中の見せかけの善意に気づき葛藤していたのだ。小僧に気づかれぬように体重計を運んだ駄賃として鮨を思う存分食べさせてやることに成功するのだが、彼は秤屋の前を通ることに気がさし、例の鮨屋にも自分からは出かけなくなる。

書棚から取り出して再び読んだ。でもこのときはまだ作者の小僧に対して「少し残酷な気がしてきた」と最後に書き置いた意図はよくわかっていなかった。

次の年、休暇をとって宇和島へ行った。癌で入院中の祖父に付き添うためだ。私に名前をつけてくれた寡黙で頑強だった祖父は、病院のベッドで小さくなっていた。「よく来てくれたね。忙しいのだろ、葬式には来なくていいよ」祖父がかけてくれた最後の言葉に胸が詰まった。帰りの連絡船の中でのことだ。小さな女の子が甲板を走り回って危ないので一緒に遊んでいると、私を手招きする紳士がいた。近づくと若い女性を連れていて、さっきの女の子がその女性に飛びついた。「娘と遊んでくれてありがとう、君はどこで下船するの？」と聞かれた。船の二等船室は脚を伸ばすスペースもないほど混んでいたため、甲板で涼んでいた私は「大阪まで」と答えた。「迷惑でなかったら、娘と遊んでもらえないかな？」と頼まれた。「私でよければ、お二人に見えるところで一緒に遊んでますよ」と答えると、その女性は「ぜひに」と嬉しそうに笑顔を向けた。遊び盛りの幼女を持て余していた彼女は妊婦らしく船旅も辛そうだった。「荷物を持って私たちの部屋に来てください」と誘われた。リュックひとつの私は、そのままその家族について行った。

登り階段の前に「貴賓室ご利用以外のお客様は昇降をご遠慮ください」と書かれた表示が立っていた。船の旅で知ったことだが、船室の格差が尋常でない。値段も違うのだろうが、広々とした船室には応接セットがあり、明るく大きな窓から空と海が見渡せた。こんな豪華な船旅があるのか。遊び疲れた女の子は夕食後すぐに眠ってしまった。早朝に船長が挨拶に来た。私を見掛けて、この船室の方は株主なのだと話してくれた。奥さんの実家がある北陸まで旅をしているとのこと。子どもの相手をしてくれて助かったと話していたそうだ。運転手が同行していて、このまま北陸まで一緒に旅をしないかと誘われたが、丁重に断った。紳士は「この部屋で大阪港まで乗って行きなさい。乗務員には伝えてあるから」と言い残し、神戸港で下船した。

こんな経験を辿って今も考えている。作者が仙吉に対して少し残酷な気がしたと言うのは、幼いものに対して社会の仕組みや状況を伏せたまま、おとぎ話のような美談にしてしまったことなのではないか。世間には貧富の差があって、いろいろな場面でそれぞれの振る舞いを見ることがある。幼いひとにはすぐにわからなくても、後ろめたい親切も含めて現実を見据えることが社会の仕組みを知る上で重要なのではないかと思ったが、それでは物語にならないのかもしれない。

2025.3.31 和田数子

『小僧の神様』　志賀 直哉　1920年



神田の秤屋で奉公をしている仙吉（小僧）は、番頭達の話で聞いた鮨屋に行ってみたいと思っていた。ある時、使いの帰りに鮨屋に入るものの、金が足りずに鮨を食べることができない仙吉を見かけた貴族院の男（A）は、後に秤屋で仙吉を見つけ、鮨を奢る。

鮨を奢られた仙吉は「どうして番頭たちが噂していた鮨屋をAが知っているのか」という疑問から、Aは神様なのではないかと思い始める。仙吉はつらいときはAのことを思い出し、いつかまたAが自分の前に現れることを信じていた。一方、Aは人知れず悪いことをした後のような変に淋しい気持ちが残っていた。

ちなみに、本文の十節には「『Aの住所に行ってみると人の住まいが無くそこには稲荷の祠があり小僧は驚いた』というようなことを書こうかと思ったが、そう書くことは小僧に対して少し惨酷な気がしたため、ここで筆を擱く」という擱筆の文が挿入されている。



第3回『アイ・アム・サム』 闕宏之

福祉に携わる者なら

「ほかのパパは一緒に遊べない」

かつて、アメリカ映画は,フォレストガンプ、レインマン、といった心身機能に特徴はあるものの観客にインパクトや感動を与えるヒーローを登場させたが、この映画の主人公サムは７歳児と同等の知的能力の青年である。その娘のルーシーが8歳の誕生日を迎え、その誕生パーティーで、サムは、ルーシーの友達を突き倒してしまった。娘への養育能力を懸念する行政当局（児童家庭局）は、虐待も懸念してサムの親権を取り上げ、ルーシーを養護施設に送る。しかし、彼は、ルーシーの親であることを唱えて児童家庭局の決定に対抗する。法律家のリタや地域の人々の支援を受けてこの難題に立ち向かった。

映画は、2001年にアメリカで公開され、日本での公開は2002年。監督はジェシー・ネルソン、脚本クリスティン･ジョンソン。この二人は、ロサンゼルスの団体でピープル・ファースト（People First：私たちは障害者である前に人間である）運動に学び、ここで出会った2人の当事者を俳優として起用している。自由・自律の象徴として全編にビートルズのカバー曲が流れる。

映画のラストシーンは、彼や娘のルーシー、里親や法律家や彼の仲間たちが楽しそうにサッカーに興じている。さらにそれを鳥瞰するように木の上から人々が織りなす融合的なシーンを映し出す。映画を鑑賞した人は、熾烈な裁判を終えて穏やかな人々の生活が巡ってきたという結末に安堵し、サムとルーシーはそのままで、友人たちもそのままで、地域や近隣の人々が相互に交流しているインクルーシブな世界が映し出される。

ズームアップ

映画が製作された当時のアメリカは、差別禁止を唱える「リハビリテーション法」や「障害を持つアメリカ人法」の時代で、この映画の制作に際して、監督や脚本家は、ピープル・ファースト運動やピープル・ファーストと対になって使われたセルフ・アドボカシー（自分たちにことは自分たちで決める）をテーマに物語を展開させ、指導者や親や専門家に権利を代弁してもらうのではなく、自分たちの主張は自分で表明し、自分らしい生活を確立するという当事者の姿が随所に盛り込まれており、障害を理由に施設に閉じ込める隔離政策を否定する脱施設化の運動も展開された。映画にはこのような背景があることを理解して欲しいが、この運動は、世界規模で、日本でも展開され、今では語り草となってしまった。

この映画の要点をあげてみた。

①サムには知的障害がある

サムは、スターバックスで働いている。友人がビデオの鑑賞会を語るが、これは、アメリカ全土で当事者グループが自分たちのことを明らかにしてピープル・ファーストやセルフ・アドボカシーを掲げて開催する自発的な会合を指している。

②児童福祉局と親権審査

児童福祉局のスタッフやソーシャルワーカーは、原則や規則を振り回す融通がきかない、人の幸福を阻害する存在として描かれる。この映画に登場する唯一の悪人である。そのことが問題視されるかもしれないが、わが国の知的障害の定義や親の養育能力や児童虐待への対応は、わが国の児童相談所でも同様だといわれ、親や子供の心情は忖度されない。

③障害の一元的な定義をもとに繰り広げられる社会的弱者対策

サムは、幼い時に両親から引き離されて、障害者として世間から隔離された施設で過ごした経験がある。それは、普通なことではないと主張する。弁護士のリタは法を守る体制側の人間でありながら、舌鋒鋭く当局や検事、専門家と対峙し、既存の障害定義や社会政策や福祉機関などの教条主義に立ち向かった。それは、障害者＝社会的弱者という一元的な見方ではなく、根底には、多様な側面がある人間という存在に着目して人の可能性を説くという立場が示されている。サムにはできないことがあるが、誰でも同じことだ。サムは、障害者サムではなく、ただのサムなのだ。周りには沢山の仲間や伴走者がいる。安心して暮らしいけばいいんだ、とでもいうようだ。

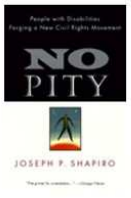
おわりに

この映画で繰り広げられた重苦しい葛藤の元凶は、児童家庭局に象徴される法による障害定義である。障害定義の区別（discrimination）こそが問題であり、強固な隔離主義、頑迷な社会制度・社会常識に抗ってそれを乗り越えたというのがこの映画の結論のようである。定義を改めるべきだという議論は、WHO（2001）によって国際生活機能分類（ICF:International Classification of Functioning and Disability）として示されているが、この定義は人の機能を言うもので、あえて言うなら、ハードルやバリアーがなければ、どんな人でもゆうゆうと暮らせる、という考えに基づくが、わが国でも採用されそうにない。

この結末のようにサムやルーシーの今後がめでたしめでたしという訳にはいかないだろうが、願わくは多様な人間の存在を認め、寛容な社会の到来を描いた映画だというのは言い過ぎだろうか、踏み込んで考えるのもいいことだ。

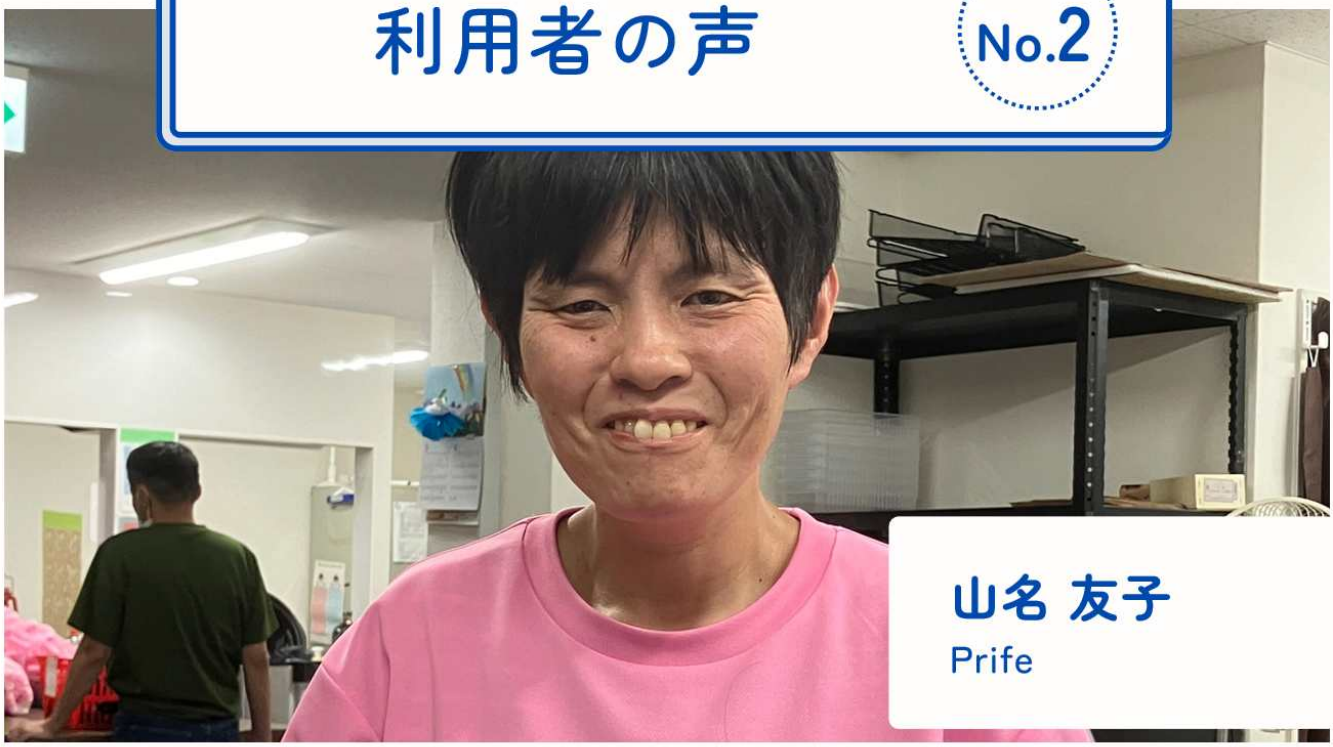
追記：

私は、1993年に、当事者や支援者20名で、ミネアポリス・オマハのピープル・ファースを訪ね研修の機会をもった。ミネアポリスでは、当事者たちの活動を支援している団体や当事者を訪ね、当方のメンバーは、彼らが居住するグループホームに泊めてもらった。メンバーは、施設ではなく地域で暮らすこと、企業で雇用されることを実現していた。写真の<NO PITY：哀れみはいらない>というできたての書籍を贈呈された。彼らも一部を執筆しており、メンバーのサインが入っている。



利用者の声

No.2



山名 友子
Prife

私にとってそうそうの杜とは、楽しくて、たくましくて、良いところです。毎日、みんなと会えるのが楽しみです。

山名友子です。そうそうの杜には、養護学校を卒業してすぐだから年の数だけいます。１８歳から。普段はPrifeで働いてます。
Prifeでは１階で、部品の袋入れのお仕事をしています。時間は９時から１７時までです。

朝、家を出るのは青い鳥保育園の見守りがある日は７時１０分、ない日は８時に出てます。青い鳥保育園の見守りは、子どもたちやお母さんが元気にあいさつを返してくれるので、とっても楽しいです。

そうそうの杜で一番好きな場所は、やっぱりPrifeです。みんなと一緒にお仕事ができるので、毎日楽しいです。
私が一番楽しい活動は、全部楽しいのですが、特に冬旅行が楽しかったです。和歌山だったんですけど温泉に入ったり、美味しいものを食べたり、みんなで行きました。

Prifeで頑張っていることは、毎朝のラジオ体操です。体を動かすと、一日元気です。
仲の良い人は２人います。いつも一緒に話したり、お昼ご飯を食べたりしています。

好きなスタッフは小澤さんです。理由は『あら、山名さん』って、いつも笑顔で声をかけてくれるのが嬉しいです。

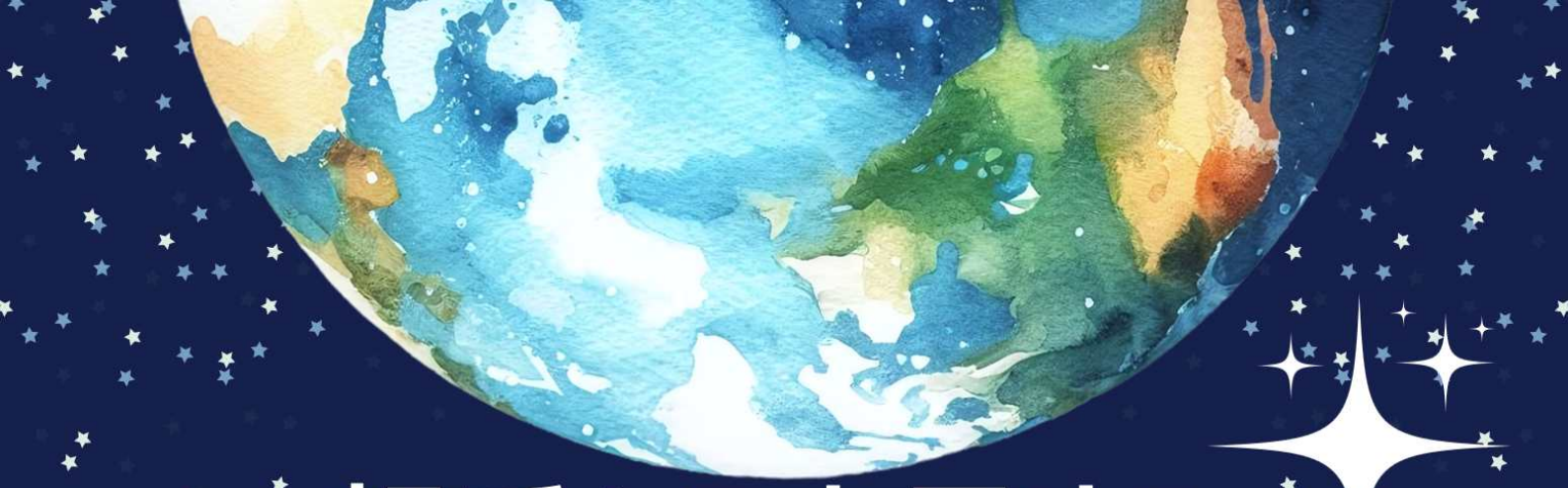
そうそうの杜の中で嬉しかったことは、本部で私の振り返りをしてくれることです。
これからそうそうの杜でやってみたいことは、ダンスです。大会はいいですけど、踊れたら楽しそうだなぁって思います。

そうそうの杜での思い出は、今福まつりで売り子をしたことです。『いらっしゃいませー』って、大きな声で呼び込みをしたのが、良い思い出です。

私にとってそうそうの杜とは、楽しくて、たくましくて、良いところです。毎日、みんなと会えるのが楽しみです。そして私の夢は、誰かのお嫁さんになることです。

Prife　B型・移行

就職に向けての活動のみならず、さまざまな方が自分を活かして生き生きと活動されています。



親愛なる火星人へ

ぼくと発達障害とイーロン・マスク

北橋 惇

ぼくは発達障害です。

この度、荒川理事長より、「発達障害ならではの宇宙の話をしてほしい」とのご依頼がありました。

ぼくは20代前半頃、講演会の講師行脚をして、京都の教育委員会ですとか、国交省などに呼ばれて発達障害についてお話をしていたのですが、発達障害の方の多くがそうであるように、ぼくも理数系に非常に強い関心を持ち、発達障害について講演をするかたわら、隙あれば宇宙の話をしているという有り様でした。そんなぼくの初めての講演を聞きに来てくださり、助言もくださったのが荒川理事長です。当時ぼくはそうそうの杜とは無関係の人間でしたが、20年前のそうそうの杜本部にはじめて入った時、「ここがぼくの職場だ」とひどく懐かしい、不思議な気持ちになったことをおぼえています。その後、ぼくはずっと他のB型事業所の職員として勤めており、そうそうの杜と接点はなかったものの、紆余曲折を経てそうそうの杜で働かせていただくこととなり、20年前の、予感のような不思議な感覚が現実になっていることにとても驚いています。

前置きはこれくらいにしまして、荒川理事長のご依頼である宇宙の話に戻ります。

この20年で宇宙開発は大きく変わりました。その原因は、やはり発達障害があると公言している実業家、イーロン・マスクが、スペースXという宇宙開発の企業を立ち上げ、全世界のトップを走り続け、常に新たなる挑戦をしていることに起因するでしょう。地球の低軌道上をめぐる通信衛星のほとんどは彼のものです。アメリカはイーロン・マスクがいたから宇宙開発の先頭に立つことができ、そうでなければ、とっくに中国に抜かれていただろうと評されています。

イーロン・マスクは常人では理解できないような突飛な発想を持ち出してくることが多く、しかもそれを実現してしまうので、こと宇宙開発において、彼は人類の常識と限界を超えてしまう存在なのです。

彼が「火星に移住したい」と言った時、普通であれば「そんなことができるはずがない」と感じてしまうところ、「詳しく知りたい」と引き込まれてしまうのは、彼がこれまで、既存の常識を破壊してきた実績があるからでしょう。

最近であれば、ロケットの再利用が挙げられます。打ち上げに1億から100億円もの費用がかかるロケットは、1回限りの使い捨てです。これを「もったいない」としたイーロンは、「落ちてくるロケットを巨大なお箸でキャッチして、もう一度使えばいい」というアイディアを出したのです。何を考えているのか、という突飛な発想ですが、実際にイーロンはこれを成し遂げ、全人類史上初のロケット再利用に成功しました。ロケットの打ち上げ費用はこれまでの100分の1になると言われています。



※大きなお箸でロケットをキャッチ！

最近のイーロンは政治に手を出し始め、持ち前の苛烈な合理的主義・実力至上主義で多くの敵を作っていますが、このように優れた科学の徒ですので、どうか宇宙開発を成し遂げてほしいと願っております。

イーロン・マスクは当初、火星への移住は100年以上の時間がかかると言っていましたが、昨今、スペースX社は信じられないような技術的躍進を遂げ続け、2050年には火星に人間を送り込めると語っています。もう今からわずか25年後のことです。更にイーロン・マスクは、火星での出産も可能にするため、医療チームを組み、万全の体制を構築するとともに、自分の精子も提供しています。イーロン・マスクの言う通りなら、あと何十年か先に生まれるイーロンの息子は、火星生まれの火星人ということになるでしょう。これは大変おもしろいことだと感じています。

ぼくたち発達障害は、こと人の気持が理解できないと言われ、「地球にいる宇宙人」というような言葉で書籍が発売されたこともありました。実際に発達障害の方は、定型発達の人の気持ちを予想することが極めて難しいのです。しかしぼくの経験上、同じ発達障害同士なら気持ちがすごくよくわかるし、目に見えない親睦感が生まれることも体験してきました。「人の気持ちがわからない人間」と言われると、まるで人間失格のようで、多くの発達障害の方の勇気がくじかれます。脳の構造が違うだけの話で、同じ脳の構造の人同士なら、人の気持ちはちゃんとわかるのです。

これをどのカテゴリの問題として見るか？という観点があります。人間というカテゴリで見た時、「人の気持ちがわからない」という話が出てくるように認識されていますが、これは、「日本の中で日本人同士の」という前置きがつくカテゴリの話なのではないでしょうか。もしもグローバルに、世界各国の方が一同に会する状態であれば、牛は神聖な生き物だから食べないという人もおられますし、逆に犬や猫を食べる人もおられ、畜産・愛犬家・愛猫家のカテゴリにとっては、ときに「人の気持ちがわからない」と感じることもあるでしょう。

更にもっとカテゴリが広がればどうなるか？

ここでイーロン・マスクが、「火星人」という新たなカテゴリを広げようとしていますが、そんな大きなカテゴリにとって、ぼくは「地球生まれ、地球育ちの地球人です」ということになり、発達障害という小さなカテゴリはあえて紹介するに値しないでしょう。宇宙という大きなカテゴリが広がりますと、地球生まれか、火星生まれかで大きく価値観が変わります（イーロンは火星に国家を建国しようとしているため）。重力が3分の1の火星の住人ですから、そもそも考え方や常識もまったく異なる人達が育つでしょう。ちなみにそんな低重力下では、骨や筋肉が育ちませんので、火星人たちは一般的な地球人の日頃の活動を見て、「超人だ」と感じることでしょう。地球で現役引退したスポーツ選手も、火星に行けばヒーローになるため、スポーツ選手の中には火星ブームが起こるかもしれませんね。



※地球にいる大きな荷物のワーキングママは、火星人にはマーベル・ヒーロー並にうつる！？

発達障害であるイーロンの手によって、大きなカテゴリの拡大が行われようとしているのは面白いことで、ぼくはそんな時代を迎えることを楽しみにしています。親愛なる火星人と、宇宙を隔てて、お互いの価値観を混ぜ合うような話をしてみたいものです。

homemade bread & sweets
Lianの杜
パンとスイーツのお店

そうそうの杜グルメ vol.3

Lianの杜

心が踊るような、Lianの杜のパティスリー。





米粉のガトーショコラ

甘さ控えめのガトーショコラ。そのまま食べても美味しいけれど、電子レンジで10秒ほど温めるとまた違った美味しさがあります

米粉のバスクチーズケーキ

焼き目の香ばしさがアクセントになるバスクチーズケーキ。
ヨーグルトを入れることで、さっぱりした味になっています。



一番人気！シフォンケーキ

卵の力だけで膨らんでいるのでふわふわでしっとりした食感。バナナ・プレーン・チョコチップ・アールグレイなど味もいろいろあります。



大人気！クッキー

アニマルクッキーはお店に並べるとすぐになくなる人気クッキー。スノーボールも美味しさはもちろん、お値段もリーズナブル。おまけに味のラインナップも豊富です。

pâtisserie

Harumi Nakagawa



歌うように描くように

『自分』を表現する

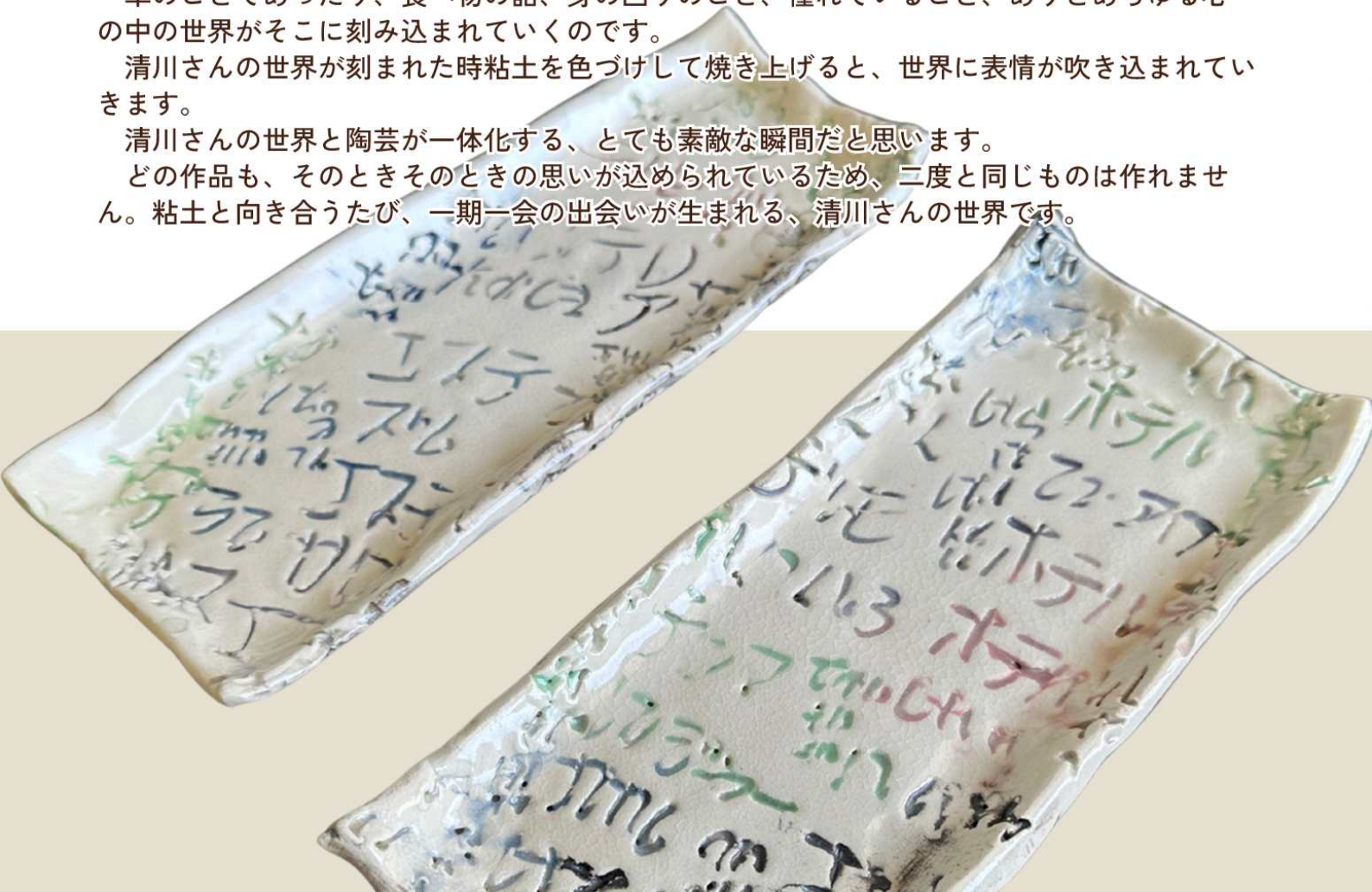
sousouartist

そうそうの杜アーティスト

第4回 清川 綾一さん

文・駒澤 美羽

　今回紹介するアーティストは、清川さんです。
　清川さんは、粘土の中に自分の心の中の世界をとてもうまく表現されます。粘土をお渡しすると、まず自分の好きな形に整えた後、そこに心の中の世界を書き込んでいきます。
　車のことであったり、食べ物の話、身の回りのこと、憧れていること、ありとあらゆる心の中の世界がそこに刻み込まれていくのです。
　清川さんの世界が刻まれた時粘土を色づけして焼き上げると、世界に表情が吹き込まれていきます。
　清川さんの世界と陶芸が一体化する、とても素敵な瞬間だと思います。
　どの作品も、そのときそのときの思いが込められているため、二度と同じものは作れません。粘土と向き合うたび、一期一会の出会いが生まれる、清川さんの世界です。



そうそうの杜 メディアリスト

YouTube



1 關宏之『福祉の本質』

柔らかな切り口で福祉の本質に迫る、そうそうの杜相談役關先生の福祉講座



2 多田康秀のプロ野球速報

野球をこよなく愛する多田康秀が、プロ野球ニュースを熱く語り尽くします



3 Prife SMILE TV

利用者発信！ Prifeにまつわるさまざまな動画を配信するチャンネルです



4 各種ニュースetc

法人のニュースや講義など、ここでしか見れない動画を続々と配信いたします

Instagram



1 Kawasemi



2 杜のShokudo



3



4 おいもの国のアリス Alice in Potateland



5 杜のこうさてん



6 そうそうの杜(インスタ)

Online



1 Amazon電子書籍

そうそうの杜出版部から、絵本やエッセイなど珠玉の作品がAmazonKindleで発売中



2 LINEスタンプ

LINEスタンプ好評発売中！「ビンちゃんスタンプ(挨拶)」で検索してね！

coming soon

7 そうそうの杜(X)



8 鴫野活性化プロジェクト

そうそうの杜は

税額控除対象法人です

ご寄付で控除を受けることができます

メリットの大きい方をご選択ください

税額控除 小口の寄付に減税効果

所得金額にかかわらず小口の寄付にも減税効果
（寄付金額 − 2,000円） × 40%（定率） ⇒ 減税額

例…5万円のご寄付
（50,000円 − 2,000円） × 40% = 19,200円
（但し、所得税額の25%が限度）

所得控除 大口寄付に減税効果

所得金額と寄付金額が多いほど大きな減税効果
（寄付金額 − 2,000円） × 所得税率（5〜45%） ⇒ 減税額

例…5万円のご寄付（課税所得金額が500万円の場合）
（50,000円 − 2,000円） × 20% = 9,600円（但し、寄付金額は年間所得金額の40%が限度）

2025/1〜2025/6 ご支援いただいた方（敬称略）/ 機関誌をお送りいたします。

飯田 靖子、中島 伸治、外川 鉄治、嶋本 八千代、倉川 俊介、弁護士 山本 大助、稲岡 了三、野間 満典、徳岡 信、渡邉 サダ子、東 和恵、金子 公子、森 貴宏、足立 正人、常山 一歩、三宅 克英、吉田 和正、村津 和雄、村田 隆昌

当法人の理念や事業、目的に賛同される方、
事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。

寄付の手順

銀行振込

下記までお振込ください。
ゆうちょ銀行
口座番号：
00940−5−185986
振込先（加入名）：
社会福祉法人　そうそうの杜

物品寄付のお願い

地域の交流場所を作るため、麻雀卓を探しています。ご不要な麻雀卓（できましたら全自動麻雀卓）がございましたらご寄付をお願いいたします。
その他ご不要なものがございましたらご寄付をお願いいたします。



探しています

ご支援、ご寄付いただき心より感謝申し上げます。

社会福祉法人そうそうの杜



法人本部

城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



地域生活支援センターあ・うん

相談支援事業
城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6969-8123
Fax/06-6167-2622



北部地域センター（大阪市障がい者就業・生活支援センター）

城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6955-9921
Fax/06-6167-2622



とことこっと

居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護
城東区中央1-6-29 2F
Tel/06-6167-7530
Fax/06-6955-8826



Prife

就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援
城東区東中浜2-2-19
Tel/06-6923-8959



座座

就労継続支援B型
城東区鴫野東3-2-12
Tel/06-4258-6013



つむぎ館

就労継続支援B型
城東区鴫野西5-13-6
Tel/06-6180-6820



Kawasemi

就労継続支援A型
城東区中央1-6-29
Tel/06-6935-1111
Fax/06-6935-1911



杜のShokudo

就労継続支援Ｂ型
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6955-8080
Fax/06-6167-2622



創奏

生活介護
城東区鴫野東3-3-1
Tel/06-6923-8929



庵

生活介護
城東区鴫野東2-26-18
びんの郷 1F
Tel/06-6958-4745



伝

児童発達支援・放課後等デイサービス
城東区鴫野東2-26-18 びんの郷 2F
Tel/06-6958-4746



げんげん

生活介護
城東区鴫野東3-18-5
Tel/06-6180-9670



いま福の家

生活介護・共生型通所介護・共生型介護予防型通所サービス
城東区今福南4-15-33
Tel/06-6180-7399



心

自立訓練
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



添

短期入所
城東区鴫野東3-2-5
Tel/06-6167-5395



杜のこうさてん

大阪市つどいの広場事業
城東区鴫野東3-3-3
Tel・Fax/ 06-6961-5505

鴫野商店街内
サテライト



Lianの杜



おいもの国のアリス



杜のざっかやさん



本と釜



だがしやさん

そうそうの杜秘密ニュース
そうそうの杜×トレーディングカードのうわさ！楽しみにしてくださいね！